

研修名 保育実践(物・自然を使った遊び)

平成30年11月21日(水) 10:00~15:30

講演・意見交流会 「自然の環境での保育実践方法」

講師 環境レイカーズ 島川 武治 氏



1 フィールドワーク

① 様々な木々の特徴を知る。

- ・かくれみの葉…同じ木でも若い葉と古い葉で形が違う
- ・クスノキ…虫が嫌がる匂い
- ・山茶花と椿…似ているが見分け方は花の落ち方。椿が花ごとで山茶花は花びら
- ・紅葉…葉は5つに分かれていると思われがちだが、本来は7つ
- ・松の木

② 遊んでみよう

- ・松の葉相撲 ・紅葉の葉の交換ゲーム・紅葉の種飛ばし
↳ 全く違うものが落ちているという認識
- ・ルーペで様々な自然物の観察(木、虫、葉、苔など)
↳ 細部を見て、今まで見えないもの、見なかったものを見る
- ・袋の中の物当て
↳ 触れたものは何かを考える(触感)
- ・木の枝、葉、松ぼっくりを使ってバランスゲーム→方法を考える
- ・じゃんけんゲーム(松ぼっくり=グー、木の枝=チョキ、葉=パー)→遊びの工夫
- ・色の違いをみてみよう(・赤、黄、オレンジ、茶色の紅葉の葉を集める)
↓
(・グラデーションの葉を集めて並べる)
↳ 主張して話し合う、工夫して見比べる
- ・葉っぱを飛ばして遊ぶ
↳ 上手くいくために考え、くり返す。失敗を恐れない気持ちを育む

2 講演・意見交流会

① 見つける目・感じる心(お探しワーク…相手のどこが変わったか)

(感じるワーク…手をつなぎ、感じたことを言語化)

② 保育に役立つ体験学習法

体験→指摘→分析→仮説化→試行

・現代の子どもはなかなか自然体験が出来ない。

1) 体験=やりっぱなし、発展がない、学びが浅い

2) 環境の変化

3) 寄り添う大人(保護者、保育者、近所)の減少→自然へのイメージの低下

3K(汚い、怖い、危険)

4) 個別遊びの発展(ゲーム、スマホ)

5) 生命への軽視

(例)遊んでいる虫のおもちゃが精巧。本物の虫も足が取ればテープで直っている。命を命とっていない。

- ・今の保育は、子どもが考える前に大人が制止することが多いので、何故？と思うことが少ない→考える力が弱い。
- ・子どもたちが分析し、仮説を考えられるよう、大人が指摘の仕方を考える。
- ・見ただけでは分からないので、教え方に工夫をする。(ゆっくり言う、同じ方向で)
- ・出来た人が出来ていない人に教える。→教え合えると物事を得るスピードが早い。
- ・ポイントをとばさず体験させていくことが大切。→行動も変化する

③自然体験型環境保育の効果(意義) 子ども達へのメッセージ

- ・地域の自然を大切にしてほしい
- ・環境を保全し創造するために、自ら考え行動できる力(生きる力)を培ってほしい
- ・自然体験を通じて、豊かな感性を培ってほしい
- ・いのちの尊さを感じ取ってほしい

☆五感(視覚、触覚、嗅覚、聴覚、味覚)をしっかりと使って感じる大切である。



『知る』ことは『感じる』ことの半分も重要ではない レイチェル・カーソン

3 感想

自然にあふれた地域で勤務をしているため、普段から子ども達と共に自然には多く触れていると思っていた。だが、今回の研修を受け、本来の意味での自然には触れていなかったなと感じた。木や虫、葉っぱを探して集めたり、観察をしたり、制作に使用したりすることは多かったが、葉っぱの匂いを嗅ぐ、投げて落ち方を見る、じゃんけんなどゲームにして遊ぶということはあまりしてこなかった。五感を使うことが大切と話にもあったので、何をすればこの五感を使えるということも考えながら、子ども達が自然に対する興味を持ち、自分から深めていきたいと思えるよう声を掛けたり、関わっていきたいと思った。また、大人が先に危ないと言ったり危機回避をしてしまうことは確かに保育の現場でも多いなと感じる。だがなかなか危険な経験をさせることは出来ないの、なぜ危ないのか、なぜしてはいけないのかを子ども達で考えられるようにしていかななくてはいけないと思っている。

自然に恵まれた地域に住む子ども達なので、のびのびとたくさんの自然に触れ、経験したことや思い、発見を友だちと共有しながら自然の素晴らしさや大切さ、生き物の尊さを知ってほしいと思う。そのためにも、関わる私たちから自然に触れることを楽しんでいきたいと思った。



(記録) せんだん苑こども園
倉橋 加奈子 梅原 佑奈